古文ドリル：過去の助動詞「き」識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト〜難関私大・国公立二次まで） **著作権**：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：過去の助動詞「き」

過去の助動詞「き」は、 **連用形接続**（カ変・サ変は例外あり）。 活用が変則的で、入試の頻出識別テーマ。

活用形	形	用例
未然	せ	行か**せ**ば（反実仮想）
連用	（なし）	—
終止	き	行き**き**。
連体	し	行き**し**人
已然	しか	行き**しか**ば
命令	（なし）	—

意味：自分が経験した過去（実体験）

カ変・サ変の例外

動詞	未然「せ」	連体「し」	已然「しか」
カ変「来（く）」	こ・き接続不可	来（こ）**し**／来（き）**し**	来（こ）**しか**
サ変「す」	（せ）**し**＝せし	**せ**し	**せ**しか

→ 「来し」「せし」のように特殊形を取る。

識別の鉄則

1. **直前は連用形**（カ変・サ変のみ例外）
2. **「し」が出てきたら多くは過去連体形**（「形容詞語幹＋し」と混同注意）
3. **「しか」は已然形＋ば**（過去原因・確定）

4. **「せば〜まし／なまし／けむ」は未然形**（反実仮想）
5. **「し」が体言の前 → 連体形ほぼ確定**
6. **「しか」が「ども」を伴うと逆接**（〜したけれども）

「き」と「けり」の違い

助動詞	ニュアンス
き	自分が経験した過去
けり	伝聞・気づき（〜たのだなあ）

例： - 行き**き**：（自分が）行った - 行き**けり**：行ったのだなあ（気づき・伝聞）

識別注意：紛らわしい「し」「しか」

- 副助詞「し」（強意）：「今**し**も」「春**し**くれば」
- 形容詞シク活用語尾「し」：「美**し**」「悲**し**」
- サ変動詞「す」連用形「し」：「ものし給ふ」の「し」
- 副詞「しか」：「**しか**思ふ」（そう思う）

→ 直前接続・下接語で判断する。

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

> 「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。
> こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 「し」を見たら まず連体形 と疑え

過去「き」の連体形「**し**」が古文で最頻出。 - 「**し**＋体言」 → 過去連体形でほぼ確定（行きし人・見し花・思ひし夜） - 「**し**＋句点」 → 過去終止形「き」ではないので、別の語の可能性

→ 「し」を見たら **直後を確認**。体言があれば連体形・過去で即答。

コツ② 「しか」3点セットで覚える

- 「**しかば**」 → 已然形＋ば → 過去の **原因・確定**（〜したので）
- 「**しかども**」 → 已然形＋ども → 過去の **逆接**（〜したけれども）
- 「**しか**」単独で文末 → こその結び（已然形）

→ 「**しか**」が出てきたら **已然形** で即答。

コツ③ 「せば〜まし」は反実仮想の合図

「せば」「ましかば」「ませば」が前にあって、文末に「**まし**」があれば、未然形＋反実仮想。 「**せ**」は「き」の未然形。 例：「世の中にたえて桜のなかり**せば**春の心はのどけからまし」

→ 「**せば**」を見たら未然形・反実仮想で即答。

コツ④ カ変・サ変の特殊形は 丸暗記

- カ変「来」 → 「**こ**し」「**こ**しか」「**き**し」「**き**しか」（こ／き両方OK）
- サ変「す」 → 「**せ**し」「**せ**しか」（必ず「せ」）

→ 「**せし**」「**せしか**」を見たら **サ変「す」＋過去「き」** で即答。

試験本番でのチェック順序

1. 「し」＋体言 → 過去「き」連体形
2. 「しか」＋ば／ども → 過去「き」已然形
3. 「せば」〜「まし」 → 過去「き」未然形＋反実仮想
4. 「せし」「こし」 → サ変・カ変＋過去「き」

→ この順番で **3秒** で答えが出ます。

よくある引っかけ

- 形容詞シク活用の語尾「**し**」（美**し**・悲**し**）と過去連体「**し**」は別物 → 直前が動詞連用形か形容詞語幹かで判別
- 副助詞「**し**」（強意）：「今**し**も」「春**し**くれば」 → 動詞連用形に下接していない
- 副詞「**しか**」（そう）：「**しか**思ふ」 → 文頭近くにあり下接語と関係しない

採点表

- 基礎（Q1〜Q20）：　／20
- 標準（Q21〜Q50）：　／30
- 応用（Q51〜Q80）：　／30
- 入試レベル（Q81〜Q100）：　／20
- 合計：　／100

【第1部】基礎編（Q1〜Q20）

純粋な四活用形の識別。

Q1. 次の傍線部「き」を識別せよ。

> 我れ昨日、京に行き**き**。

答え：過去「き」終止形 **解説**：「行き」連用＋「き」。文末で終止。「私は昨日、京に行った」。

Q2. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> 行き**し**人。

答え：過去「き」連体形「し」 **解説**：「行き」連用＋「し」＋体言「人」。「行った人」。

Q3. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

> 行き**しか**ば、人ありき。

答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（原因） **解説**：「行き」連用＋「しか」＋「ば」。「行ったので、人がいた」。

Q4. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

> 月見**せ**ば、心慰めなまし。

答え：過去「き」未然形「せ」＋接続助詞「ば」（反実仮想） **解説**：「見」連用＋「せ」＋「ば」＋「なまし」。「月を見たならば、心が慰められるだろうに」。

Q5. 次の傍線部「き」を識別せよ。

> 昨夜、夢を見**き**。

答え：過去「き」終止形 **解説**：「見」連用＋「き」。「昨夜、夢を見た」。

Q6. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> 来**し**方。

答え：過去「き」連体形「し」（カ変例外） **解説**：カ変「来」連用「き」＋「し」＋体言「方」。「過ぎ去った（来た）方角・過去」。

Q7. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

> 友、訪ね来**しか**ば、喜びけり。

答え：過去「き」已然形「しか」（カ変例外） **解説**：カ変「来」＋「しか」＋「ば」。「友が訪ねて来たので、喜んだ」。

Q8. 次の傍線部「き」を識別せよ。

> 我れ京に住み**き**。

答え：過去「き」終止形 **解説**：「住み」連用＋「き」。「私は京に住んでいた」。

Q9. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> 我が思ひ**し**人。

答え：過去「き」連体形「し」 **解説**：「思ひ」連用＋「し」＋体言「人」。「私が思った人」。

Q10. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

> 月見**しか**ば、心安らぎぬ。

答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（原因） **解説**：「見」連用＋「しか」＋「ば」。「月を見たので、心が安らいだ」。

Q11. 次の傍線部「ませ」を識別せよ。

> 春咲か**ませ**ば、雪解けなまし。

答え：反実仮想「まし」未然形「ませ」＋接続助詞「ば」 **解説**：「咲か」未然＋「ませ」＋「ば」＋「なまし」。「もし春が咲いたならば、雪が解けるだろうに」。明確な反実仮想構文。

Q12. 次の傍線部「き」を識別せよ。

> 嵐に倒れ**き**。

答え：過去「き」終止形 **解説**：下二段「倒る」連用「倒れ」＋「き」。「嵐で倒れた」。

Q13. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> 唐土に渡り**し**僧。

答え：過去「き」連体形「し」 **解説**：「渡り」連用＋「し」＋体言「僧」。「中国に渡った僧」。

Q14. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

> 雨降り**しか**ば、出でられず。

答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（原因） **解説**：「降り」連用＋「しか」＋「ば」。「雨が降ったので、出かけられなかった」。

Q15. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

> 古典を学び**せ**ば、いかに賢からまし。

答え：過去「き」未然形「せ」＋接続助詞「ば」（反実仮想） **解説**：「学び」連用＋「せ」＋「ば」＋「まし」。「古典を学んでいたならば、どんなに賢かろうに」。

Q16. 次の傍線部「き」を識別せよ。

> 物書き**き**。

答え：過去「き」終止形 **解説**：「書き」連用＋「き」。「文を書いた」。

Q17. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> 嘆き**し**夜。

答え：過去「き」連体形「し」 **解説**：「嘆き」連用＋「し」＋体言「夜」。「嘆いた夜」。

Q18. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

> 月隠れ**しか**ば、夜暗かりき。

答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（原因） **解説**：「隠れ」連用＋「しか」＋「ば」。「月が隠れたので、夜が暗かった」。

Q19. 次の傍線部「き」を識別せよ。

> 笛を吹き**き**。

答え：過去「き」終止形 **解説**：「吹き」連用＋「き」。「笛を吹いた」。

Q20. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> 過ぎ**し**春。

答え：過去「き」連体形「し」 **解説**：上二段「過ぐ」連用「過ぎ」＋「し」＋体言「春」。「過ぎ去った春」。

基礎編　／20

【第2部】標準編（Q21〜Q50）

サ変・カ変例外、係り結び、文末の連体留めなどが混じる。

Q21. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> 物**し**給ひける。

答え：サ変「す」連用形「し」（「き」ではない） **解説**：サ変「ものす」（あることをする）の連用形。下に「給ふ」尊敬補助動詞が来る。過去の「し」ではない引っかけ。

Q22. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> 我が見**し**夢、忘れがたし。

答え：過去「き」連体形「し」 **解説**：上一段「見る」連用「見」＋「し」＋体言「夢」。

Q23. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

> 知り**しか**ども、言はず。

答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ども」（逆接） **解説**：「しか＋ども」は「〜たけれども」と逆接。「知っていたけれども、言わなかった」。

Q24. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

> 心あり**せ**ば、いかにあはれと思はまし。

答え：過去「き」未然形「せ」＋接続助詞「ば」（反実仮想） **解説**：「き」未然形「せ」は連用形接続。ラ変「あり」連用形「あり」＋「せ」＋「ば」＋「まし」（反実仮想）。「思いやりがあったら、どんなに哀れと思うだろうに」。 ※「連用形＋せ＋ば〜まし」が反実仮想の標準構文。

Q25. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> 春**し**くれば、花咲く。

答え：副助詞「し」（強意、過去「き」ではない） **解説**：「春が来ると」を強める副助詞。下に動詞「くれ」（カ変已然）が来る。直前体言で連用接続でないので過去「き」連体形ではない。

Q26. 次の傍線部「き」を識別せよ。

> 親に孝ある人なり**き**。

答え：過去「き」終止形 **解説**：断定「なり」連用＋「き」。「親孝行な人だった」。

Q27. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> 我れ思ひ**し**こと、皆実となれり。

答え：過去「き」連体形「し」 **解説**：「思ひ」連用＋「し」＋体言「こと」。「私が思ったことは、皆実現した」。

Q28. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

> 鶯鳴き**しか**ば、春来にけり。

答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（原因） **解説**：「鳴き」連用＋「しか」＋「ば」。「鶯が鳴いたので、春が来たと気づいた」。

Q29. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

> 雨降り**せ**ば、行かざらまし。

答え：過去「き」未然形「せ」＋接続助詞「ば」（反実仮想） **解説**：「き」未然形「せ」は連用形接続。四段「降る」連用形「降り」＋「せ」＋「ば」＋「まし」（反実仮想）。「雨が降ったなら、行かなかったろうに」。

Q30. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> いと楽**しき**ことなりけり。

答え：形容詞シク活用「楽し」連体形「楽しき」語尾の「し」（過去「き」ではない） **解説**：シク活用形容詞「楽し」連体形「楽しき」に含まれる「し」。過去の助動詞「き」と混同しないこと。

Q31. 次の傍線部「き」を識別せよ。

> 帝、御覧じ**き**。

答え：過去「き」終止形 **解説**：「御覧ず」サ変連用「御覧じ」＋「き」。「帝はご覧になった」。

Q32. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> 帝、御覧じ**し**御文。

答え：過去「き」連体形「し」 **解説**：サ変「御覧ず」連用＋「し」＋体言「御文」。「帝がご覧になった御文」。

Q33. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

> 月隠れ**しか**ども、なほ仰ぐ。

答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ども」（逆接） **解説**：「しか＋ども」逆接。「月が隠れたけれども、なお見上げる」。

Q34. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

> 心知り**せ**ば、必ず告げまし。

答え：過去「き」未然形「せ」＋接続助詞「ば」（反実仮想） **解説**：「き」未然形「せ」は連用形接続。四段「知る」連用形「知り」＋「せ」＋「ば」＋「まし」（反実仮想）。「事情を知っていたら、必ず告げただろうに」。

Q35. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> 行く春を惜しみ**し**。

答え：過去「き」連体形「し」（文末の連体留め） **解説**：和歌などで「ぞ・なむ・や・か」がなくても文末を連体形で結ぶ余情表現。「行く春を惜しんだ」。

Q36. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> 「我が見**し**人」と詠ふ。

答え：過去「き」連体形「し」 **解説**：「見」連用＋「し」＋体言「人」。

Q37. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

> 物言ひ**しか**ば、答へなまし。

答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（順接確定条件） **解説**：「言ひ」連用＋「しか」（已然）＋「ば」。「物を言ったので、答えただろうに」。

Q38. 次の傍線部「き」を識別せよ。

> 父、世を捨て**き**。

答え：過去「き」終止形 **解説**：下二段「捨つ」連用「捨て」＋「き」。「父は世を捨てた（出家した）」。

Q39. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> 世に語り伝ふる**こと**こそ、心ありぬべけれ。さ思ひ**し**昔。

答え：過去「き」連体形「し」 **解説**：「思ひ」連用＋「し」＋体言「昔」。「そう思った昔」。

Q40. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

> 友、来**しか**ば、酒酌み交はしけり。

答え：過去「き」已然形「しか」（カ変例外）＋接続助詞「ば」（原因） **解説**：カ変「来」＋「しか」＋「ば」。「友が来たので、酒を酌み交わした」。

Q41. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

> 我れ若くあり**せ**ば、いかにせまし。

答え：過去「き」未然形「せ」＋接続助詞「ば」（反実仮想） **解説**：「き」未然形「せ」は連用形接続。ラ変「あり」連用形「あり」＋「せ」＋「ば」＋「まし」（反実仮想）。「私が若かったら、どうしただろうに」。

Q42. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> 我れ書か**せし**書。

答え：過去「き」連体形「し」（使役「す」連用「せ」＋「し」） **解説**：使役「す」連用「せ」＋過去「き」連体「し」。「私が書かせた書物」。

Q43. 次の傍線部「き」を識別せよ。

> 命長くもあり**き**。

答え：過去「き」終止形 **解説**：ラ変「あり」連用＋「き」。「命長く（生き長らえる）こともあった」。

Q44. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> 来**し**方行く末。

答え：過去「き」連体形「し」（カ変例外） **解説**：カ変「来」＋「し」＋体言「方」。「過去と未来」。慣用句。

Q45. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

> 雪降り積もり**しか**ば、道見えず。

答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（原因） **解説**：「積もり」連用＋「しか」＋「ば」。「雪が降り積もったので、道が見えない」。

Q46. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

> 命あり**せ**ば、また会はまし。

答え：過去「き」未然形「せ」＋接続助詞「ば」（反実仮想） **解説**：「き」未然形「せ」は連用形接続。ラ変「あり」連用形「あり」＋「せ」＋「ば」＋「まし」（反実仮想）。「命があったら、また会うだろうに」。

Q47. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> 花の色は移りにけりないたづらに我が身世にふる眺めせ**し**間に。

答え：過去「き」連体形「し」 **解説**：サ変「す」連用「せ」＋「し」＋体言「間」。「ぼんやり物思いにふけっていた間に」。小野小町の名歌。

Q48. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

> 都を出で**しか**ば、心細し。

答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（原因） **解説**：下二段「出づ」連用「出で」＋「しか」＋「ば」。「都を出たので、心細い」。

Q49. 次の傍線部「き」を識別せよ。

> 古き世に栄え**き**。

答え：過去「き」終止形 **解説**：「栄え」連用＋「き」。「昔の世に栄えていた」。

Q50. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> 行か**し**むる。

答え：使役の助動詞「しむ」連体形「しむる」の一部「し」（過去「き」ではない） **解説**：使役「しむ」は未然形接続。「行か＋しむる」。「し」は使役助動詞の語頭であり、過去「き」とは無関係。識別注意。

標準編　／30

【第3部】応用編（Q51〜Q80）

係り結び・複合語・敬語・複雑な接続の組み合わせ。

Q51. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> ぞ／知り**し**。

答え：過去「き」連体形「し」（係り結び「ぞ」の結び） **解説**：「ぞ」係助詞→連体形結び。「知っていたのだ」。

Q52. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> なむ／聞き**し**。

答え：過去「き」連体形「し」（係り結び「なむ」の結び） **解説**：「なむ」係助詞→連体形結び。「聞いたのだ」。

Q53. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

> こそ／思ひ**しか**。

答え：過去「き」已然形「しか」（係り結び「こそ」の結び） **解説**：「こそ」係助詞→已然形結び。「思ったのだ」。

Q54. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> や／見**し**。

答え：過去「き」連体形「し」（係り結び「や」の疑問） **解説**：「や」係助詞→連体形結び。「見たのか（いや見ていない）」。

Q55. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> か／聞こえし。

答え：過去「き」連体形「し」（係り結び「か」の疑問） **解説**：「か」係助詞→連体形結び。「聞こえたのか」。

Q56. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

> 思ひしかど、言はざりき。

答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ど」（逆接） **解説**：「しか＋ど」逆接。「思ったけれども、言わなかった」。

Q57. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> 我が捨てし家、人住まず。

答え：過去「き」連体形「し」 **解説**：「捨て」連用＋「し」＋体言「家」。「私が捨てた家」。

Q58. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

> もし行かせましかば、悔いず。

答え：過去「き」未然形「せ」＋「ましか」＋「ば」（反実仮想） **解説**：「せましかば〜まし」は反実仮想の強調形。「もし行っていたら、悔やまなかっただろう」。

Q59. 次の傍線部「ん」を識別せよ。

> 命のあらんかぎり、君を思はむ。

答え：推量（婉曲・連体形）「む（ん）」 **解説**：「あら」未然＋推量「む」連体形「ん」＋「かぎり」。「命のあるかぎり、君を思おう」。

Q60. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> 桜散りしころ、雪降りき。

答え：過去「き」連体形「し」 **解説**：「散り」連用＋「し」＋体言「ころ」。「桜が散ったころ」。

Q61. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

> 親病み**しか**ば、看取り侍りき。

答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（原因） **解説**：「病み」連用＋「しか」＋「ば」。「親が病んだので、看病いたしました」。

Q62. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> 我れ仕う奉り**し**君。

答え：過去「き」連体形「し」 **解説**：「仕う奉り」連用＋「し」＋体言「君」。「私がお仕えした主君」。

Q63. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

> もし神あり**せ**ば、なほ祈らまし。

答え：過去「き」未然形「せ」＋接続助詞「ば」（反実仮想） **解説**：「き」未然形「せ」は連用形接続。ラ変「あり」連用形「あり」＋「せ」＋「ば」＋「まし」（反実仮想）。「もし神がいたら、なお祈るだろうに」。

Q64. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> 古へに聞こえ**し**人々。

答え：過去「き」連体形「し」 **解説**：「聞こえ」連用＋「し」＋体言「人々」。「古に有名だった人々」。

Q65. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

> 言ひ**しか**ば、いと恥づかし。

答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（原因） **解説**：「言ひ」連用＋「しか」＋「ば」。「言ったので、たいそう恥ずかしい」。

Q66. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> 露ばかり残り**し**思ひ。

答え：過去「き」連体形「し」 **解説**：「残り」連用＋「し」＋体言「思ひ」。「露ほど残っていた思い」。

Q67. 次の傍線部「き」を識別せよ。

> 心の鬼に責められ**き**。

答え：過去「き」終止形 **解説**：「責められ」（受身「らる」連用）＋「き」。「自責の念に苦しめられた」。

Q68. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> 道のほとりに紫の生ひ**たりし**草。

答え：過去「き」連体形「し」 **解説**：完了「たり」連用＋「し」＋体言「草」。「道のほとりに紫色に生えていた草」。

Q69. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

> もの言ひ**しか**ば、聞き入れまし。

答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（順接確定条件） **解説**：「言ひ」連用＋「しか」（已然）＋「ば」。「ものを言ったので、聞き入れただろうに」。

Q70. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> その後、影をだに見**し**人なし。

答え：過去「き」連体形「し」 **解説**：「見」連用＋「し」＋体言「人」。「その後、影さえも見た人はいない」。

Q71. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

> 「来や」と言ひ**しか**ば、来ぬ。

答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（原因） **解説**：「言ひ」連用＋「しか」＋「ば」。「『来るか』と言ったので、来た」。

Q72. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

> 我れ知り**せ**ば、教へまし。

答え：過去「き」未然形「せ」＋接続助詞「ば」（反実仮想） **解説**：「き」未然形「せ」は連用形接続。四段「知る」連用形「知り」＋「せ」＋「ば」＋「まし」（反実仮想）。「私が知っていたなら、教えるだろうに」。

Q73. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> 暮るるほどに着き**し**舟。

答え：過去「き」連体形「し」 **解説**：「着き」連用＋「し」＋体言「舟」。「日暮れ時に着いた舟」。

Q74. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> 命**し**かなしき。

答え：副助詞「し」（強意、過去「き」ではない） **解説**：「命がかなしい」を強める副助詞。直前体言で連用接続でないので過去ではない。

Q75. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

> 思ひ**しか**ど、口に出さず。

答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ど」（逆接） **解説**：「思ひ」連用＋「しか」＋「ど」。「思ったけれど、口に出さなかった」。

Q76. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> 帝の見**し**夢に告げあり。

答え：過去「き」連体形「し」 **解説**：「見」連用＋「し」＋体言「夢」。「帝が見た夢にお告げがあった」。

Q77. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

> 風吹き**せ**ば、波立たまし。

答え：過去「き」未然形「せ」＋接続助詞「ば」（反実仮想） **解説**：「き」未然形「せ」は連用形接続。四段「吹く」連用形「吹き」＋「せ」＋「ば」＋「まし」（反実仮想）。「風が吹いていたら、波も立ったろうに」。

Q78. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> いま**し**散らむ。

答え：副助詞「し」（強意） **解説**：「今ちょうど散るだろう」を強める副助詞。直前副詞「いま」。

Q79. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

> 心強かり**しか**ど、涙落ちぬ。

答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ど」（逆接） **解説**：形容詞「強し」カリ活用連用「強かり」＋「しか」＋「ど」。「気丈であったけれども、涙が落ちた」。

Q80. 次の傍線部「し」を識別せよ。

> 我れ恋ひ**し**人、もはやあらず。

答え：過去「き」連体形「し」 **解説**：上二段「恋ふ」連用「恋ひ」＋「し」＋体言「人」。「私が恋した人は、もういない」。

応用編　／30

【第4部】入試レベル（Q81〜Q100）

難関大頻出。複合パターン・古典作品からの抜粋。

Q81. 次の傍線部「し」を識別せよ。（伊勢物語）

> 昔、男ありけり。京にありわびて東の方に住む**べき**国求めにとて行きけり。…さても、なほ東へ行きけり。三河の国八橋といふ所に至りぬ。…旅をし**ぞ**思ふ。

答え：副助詞「し」（強意） **解説**：「し＋ぞ」は強意の副助詞「し」＋係助詞「ぞ」。直前体言「旅」＋「し」＋「ぞ」＋動詞「思ふ」（連体結び）。「（こんな）旅をこそ思うのだ」。過去ではない。

Q82. 次の傍線部「し」を識別せよ。（古今集・在原業平）

> 月やあらぬ春や昔の春ならぬ我が身ひとつはもとの身に**し**て

答え：副助詞「し」（強意） **解説**：「身にして」の「し」は強意副助詞。動詞ではなく副助詞。難関頻出の識別ポイント。

Q83. 次の傍線部「し」を識別せよ。（古今集・小野小町）

> 思ひつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知り**せ**ば覚めざらましを

答え：過去「き」未然形「せ」＋接続助詞「ば」（反実仮想） **解説**：「知り」連用＋「せ」＋「ば」＋「まし」。「夢と知っていたなら、覚めなかったろうに」。反実仮想の典型。

Q84. 次の傍線部「し」を識別せよ。（百人一首・崇徳院）

> 瀬を早み岩にせかるる滝川のわれても末に逢はむと**ぞ**思ふ

答え：（過去「し」を含まない歌、参考問題） **解説**：この歌に過去「き」は含まれない。直前の問題からの転換例として「ぞ〜思ふ」の係り結びを確認。

Q85. 次の傍線部「し」を識別せよ。（土佐日記）

> 京に思ふ人なきにしもあらず。さるは、便りごとに物も絶え**ず**得**し**かど。

答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ど」（逆接）の「しか」 **解説**：「得」（下二段連用）＋「しか」＋「ど」。「便りごとに、品物を絶えず受け取っていたけれど」。

Q86. 次の傍線部「し」を識別せよ。（更級日記）

> あづま路の道のはてよりも、なほ奥つかたに生ひ出で**たりし**人。

答え：過去「き」連体形「し」 **解説**：完了「たり」連用＋「し」＋体言「人」。「東路の道の果てよりさらに奥のほうに育った人」。作者菅原孝標女自身。

Q87. 次の傍線部「し」を識別せよ。（源氏物語・桐壺）

> いづれの御時にか、女御、更衣あまた候ひ**たまひける**中に、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めき**たまふ**ありけり。

答え：（過去「し」を含まない、参考問題） **解説**：「たまひける」は「けり」連体形。過去「き」ではない。「き」と「けり」の混同に注意。

Q88. 次の傍線部「しか」を識別せよ。（徒然草）

> いみじき名馬なれども、悪しき名のうたて覚ゆなり。ことに名利を求めめば、いみじき名馬なりと思ひ**しか**ども、なほ売り給ひつ。

答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ども」（逆接） **解説**：「思ひ」連用＋「しか」＋「ども」。「立派な名馬だと思ったけれども、やはり売ってしまった」。

Q89. 次の傍線部「し」を識別せよ。（枕草子）

> 春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だち**たる**雲のほそくたなびき**たる**。

答え：（過去「し」を含まない、参考問題） **解説**：「たる」は完了「たり」連体形。識別の引っかけとして確認。

Q90. 次の傍線部「せ」を識別せよ。（古今集・紀貫之）

> 結ぶ手のしづくに濁る山の井のあかでも人に別れぬる**かな**。…逢はずあら**せ**ばあひしまさらず。

答え：過去「き」未然形「せ」＋接続助詞「ば」（反実仮想） **解説**：「あら」未然＋「せ」＋「ば」。「逢わずにいたなら、こうも会いたいとは思わなかったろうに」（の趣旨）。難関頻出。

Q91. 次の傍線部「し」を識別せよ。（大鏡）

> 御年五十六にて隠れ**させ**たまひ**にしか**ば、御諡を村上の御門と申す。

答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（原因） **解説**：完了「ぬ」連用「に」＋「しか」＋「ば」。「に＋しか＋ば」は「〜てしまったので」。「お亡くなりになってしまったので」。最頻出パターン。

Q92. 次の傍線部「し」を識別せよ。（平家物語）

> 祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。…おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢の**ごと**

> **し**。

答え：比況の助動詞「ごとし」終止形語尾の「し」（過去「き」ではない） **解説**：「ごとし」（比況）は形容詞型活用で、終止形に「し」を含む。過去ではない引っかけ。

Q93. 次の傍線部「しか」を識別せよ。（方丈記）

> 元暦の頃、大なゐふること侍り**しか**ば、よに有り難き事なりき。

答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（原因） **解説**：丁寧「侍り」連用＋「しか」＋「ば」。「元暦の頃、大地震がございましたので、世にもまれな出来事だった」。

Q94. 次の傍線部「し」を識別せよ。（伊勢物語・芥川）

> 白玉か何ぞと人の問ひ**し**時露と答へて消えなましものを。

答え：過去「き」連体形「し」 **解説**：「問ひ」連用＋「し」＋体言「時」。「『あれは真珠か何か』と人が尋ねた時に」。

Q95. 次の傍線部「せ」を識別せよ。（伊勢物語・芥川）

> 白玉か何ぞと人の問ひし時露と答へて消えなましものを。…あら**ず**もあらず、あらすもあら**せ**ず。

答え：使役「す」未然形「せ」（過去「き」未然形と区別注意） **解説**：「あらす」（あらせる、使役）の未然「あらせ」＋「ず」。文脈上「ば」を伴わないので過去「き」未然形「せ」ではない。難問。

Q96. 次の傍線部「し」を識別せよ。（源氏物語・若紫）

> 雀の子を犬君が逃がしつる。伏籠の内に込めたり**つる**ものを。

答え：（過去「し」を含まない、参考問題） **解説**：「つる」は完了「つ」連体形。「き」連体「し」との混同に注意。

Q97. 次の傍線部「しか」を識別せよ。（大鏡）

> 入道殿は、…我が御身も、いとよく舞ひ**たま**ひ**しか**ば、はやくよりよろづの遊びをもしたまひき。

答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（原因）　**解説**：尊敬「たまふ」連用＋「しか」＋「ば」。「ご自身もたいそう上手に舞いなさったので」。難関大の藤原道長関連頻出。

Q98. 次の傍線部「し」を識別せよ。（源氏物語・桐壺）

> 朝夕の宮仕へにつけても、人の心をのみ動かし、恨みを負ふ積もりにや、いと篤しくなりゆき、もの心細げに里がちなるを、いよいよあかずあはれなるものに思ほして、人のそしりをもえ憚らせたまはず、世のためしにもなりぬべき御もてなしなり。…前の世にも、御契りや深かりけむ、世になく清らなる玉の男御子さへ生まれ**たまひ**ぬ。

答え：（過去「し」を含まない、参考問題）　**解説**：「たまひぬ」は完了「ぬ」終止形。識別の引っかけ。

Q99. 次の傍線部「し」を識別せよ。（古今集・在原業平）

> 名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと

答え：副助詞「し」（強意）　**解説**：「名に＋し＋負はば」の「し」は強意副助詞。「（その）名を持つというのなら」。難関大頻出の副助詞「し」識別。直前体言「名に」（格助詞「に」付き）で連用形ではない。

Q100. 次の傍線部「しか」を識別せよ。（源氏物語・桐壺）

> 楊貴妃のためしも引き出でつべくなりゆくに、いとはしたなきこと多かれど、かたじけなき御心ばへのたぐひなき**を**頼みにて、まじらひたまふ。父の大納言は亡くなりて、母北の方なむいにしへの人のよしあるにて、親うち具し、さしあたりて世のおぼえはなやかなる御方々にもいたう劣らず、なにごとの儀式をももてなしたまひ**けれ**ど、とりたててはかばかしき後見しなければ、事ある時はなほよりどころなく心細げなり。…前の世にも御契りや深かりけむ、世になく清らなる玉の男御子さへ生まれたまひ**にしか**ば、いつしかと心もとながらせたまひて、急ぎ参らせて御覧ずるに、めづらかなる児の御容貌なり。

答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（原因）　**解説**：完了「ぬ」連用「に」＋「しか」＋「ば」。「に＋しか＋ば」の典型構文。「（玉のような男御子が）お生まれになったので」。源氏物語冒頭・難関大頻出の最重要箇所。

入試レベル編　／20

採点振り返り

- 基礎（Q1〜Q20）：　／20
- 標準（Q21〜Q50）：　／30
- 応用（Q51〜Q80）：　／30
- 入試レベル（Q81〜Q100）：　／20
- **合計：　／100**

あとがき

「き」識別の核心： - **「き」終止形** は文末 - **「し」連体形** は体言の前、または係り結び（ぞ・なむ・や・か）の結び - **「しか」已然形** は「ば」（原因）・「ども／ど」（逆接）と接続、または「こそ」の結び - **「せ」未然形** は反実仮想構文「せば〜まし／なまし／ましかば」 - **カ変・サ変は例外**：来し・来しか・来せ／せし・せしか - **副助詞「し」「しか」** は強意で別物。直前接続を確認

「き」と「けり」の使い分けも重要。 自分の体験 → き／伝聞・気づき → けり。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太